

令和 5 年度

第 1 回奈良市社会教育委員会議

- 開催日時 令和 5 年 6 月 28 日（水）
午前 10 時～午前 11 時 30 分
- 開催場所 奈良市役所 中央棟 B1 会議室
- 案件
 - (1) 令和 5 年度社会教育関係事業について
 - ①「令和 5 年度補助金交付社会教育団体」について
 - ②「令和 4 年度社会教育委員事業実績」について
 - ③「令和 5 年度社会教育委員事業計画」について
 - (2) 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について
 - (3) 今後の公民館運営について
 - (4) 今後の黒髪山キャンプフィールド及び青少年野外活動センターの運営について
 - (5) その他
- 配布資料
 - ・ 令和 5 年度 第 1 回奈良市社会教育委員会議次第 ※本紙
 - ・ 令和 5 年度 奈良市社会教育委員名簿
 - ・ (資料 1)「令和 5 年度 補助金交付社会教育関係団体一覧」
 - ・ (資料 2)「令和 4 年度 社会教育委員事業実績」
 - ・ (資料 3)「令和 5 年度 社会教育委員事業計画」
 - ・ (資料 4)「奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告」
 - ・ (資料 5)「今後の公民館運営について」
 - ・ (資料 6)「今後の黒髪山キャンプフィールド及び青少年野外活動センターの運営について」

第37期 奈良市社会教育委員

令和5年6月1日現在

氏 名	所 属
岡 田 和 大	奈良市PTA連合会
岡 田 龍 樹	天理大学
奥 田 益 三	奈良市青少年ボランティア育成協会
奥 村 文 浩	奈良市学校長会（鼓阪北小学校）
加 藤 国 子	富雄中学校区地域教育協議会 富雄中学校運営協議会
川 野 麻 衣 子	NPO法人北摂こども文化協会
北 出 英 数	都祁中学校コミュニティスクール
小 北 道 大	奈良県青少年指導員
武 村 純 一	奈良市民生児童委員協議会連合会
中 村 博 子	ガールスカウト奈良県連盟奈良市協議会 奈良県青少年指導員

(五十音順)

※任期：令和4年2月19日から令和6年2月18日まで

令和5年度補助金交付社会教育関係団体一覧（運営補助金）

資料1

団体名	奈良市PTA連合会				奈良市子ども会育成連絡協議会				一般社団法人ガールスカウト 奈良県連盟 奈良市協議会				ボーイスカウトわかさ地区協議会				奈良ユネスコ協会				
代表者	会長				会長				代表				会長				会長				
補助金名称	奈良市PTA連合会運営補助金				奈良市子ども会育成連絡協議会運営補助金				ガールスカウト奈良市協議会運営補助金				ボーイスカウトわかさ地区協議会運営補助金				奈良ユネスコ協会運営補助金				
令和5年度補助予算額	1,200,000円				300,000円				100,000円				150,000円				100,000円				
(参考) 令和4年度補助金額	1,200,000円				300,000円				100,000円				150,000円				100,000円				
令和5年度	団体予算額	3,091,362 円				617,600 円				2,031,544 円				2,108,500 円				1,374,627 円			
	内訳	【収入】 分担金 1,562,590 円 市補助金 1,220,000 円 その他 308,772 円	【支出】 運営費 1,610,000 円 活動費 1,350,000 円 その他 131,362 円	【収入】 会費 288,000 円 事業参加費 0 円 市補助金 300,000 円 その他 29,600 円	【支出】 管理費 592,600 円 活動費 25,000 円	【収入】 会費 1,870,500 円 負担金 40,000 円 市補助金 100,000 円 その他 21,044 円	【支出】 県連負担金 1,870,500 円 管理費 161,044 円 活動費 0 円	【収入】 会費 1,138,500 円 負担金 820,000 円 市補助金 150,000 円 その他 0 円	【支出】 県連登録費 619,500 円 管理費 1,066,000 円 活動費 423,000 円	【収入】 会費 448,000 円 事業 300,000 円 市補助金 150,000 円 その他 476,627 円	【支出】 管理費 624,627 円 活動費 750,000 円										
令和4年度	団体予算額	一般会計 3,132,750 円 特別会計 2,793,127 円				612,000 円				2,035,104 円				2,483,200 円				1,339,436 円			
	内訳	【収入】 <一般会計> 分担金 1,506,890 円 市補助金 1,200,000 円 その他 425,860 円	【支出】 <一般会計> 運営費 1,510,000 円 活動費 1,500,000 円 その他 122,750 円	【収入】 会費 283,500 円 事業参加費 0 円 市補助金 300,000 円 その他 28,500 円	【支出】 管理費 569,000 円 活動費 43,000 円	【収入】 会費 1,870,500 円 負担金 40,000 円 市補助金 100,000 円 その他 24,604 円	【支出】 管理費 2,035,104 円 活動費 0 円	【収入】 会費 1,197,600 円 市補助金 150,000 円 団体負担金 915,600 円 その他 220,000 円	【支出】 県連登録費 652,000 円 活動費 580,000 円 管理費 1,251,200 円	【収入】 会費収入 464,000 円 事業収入 300,000 円 市補助金収入 100,000 円 その他 475,436 円	【支出】 活動費 780,000 円 管理費 559,436 円										
	団体決算額	<収入> 3,162,971 円 <支出> 2,869,199 円 <差額> 293,772 円	<収入> 619,025 円 <支出> 609,517 円 <差額> 9,508 円	<収入> 1,962,154 円 <支出> 1,946,110 円 <差額> 16,044 円	<収入> 2,951,805 円 <支出> 2,951,805 円 <差額> 0 円	<収入> 1,271,441 円 <支出> 794,814 円 <差額> 476,627 円															
	内訳	【収入】 分担金 1,520,750 円 市補助金 1,220,000 円 その他 422,221 円	【支出】 運営費 1,494,307 円 活動費 1,364,892 円 その他 303,772 円	【収入】 会費 290,700 円 事業参加費 0 円 市補助金 300,000 円 その他 28,325 円	【支出】 管理費 595,517 円 活動費 14,000 円	【収入】 会費 1,799,550 円 負担金 40,000 円 市補助金 100,000 円 その他 22,604 円	【支出】 管理費 1,946,110 円 活動費 0 円	【収入】 会費 1,196,400 円 市補助金 600,000 円 団体負担金 379,373 円 その他 776,032 円	【支出】 県連登録費 652,000 円 管理費 1,111,239 円 活動費 1,188,566 円	【収入】 会費収入 408,000 円 事業収入 163,000 円 市補助金収入 150,000 円 その他 550,441 円	【支出】 管理費 398,706 円 活動費 396,108 円										
構成	会員数20,207名(82単位PTA:高校1,中学校20,小中学校4,小学校38,幼稚園8,こども園11)				22団体 646名				8ヶ団 290名				9団 39個団 480名 (スカウト:249名、指導者:231名)				特別賛助会員 7名、一般会員 28名、青年部会員 14名				
年会費	会員分担金70円 基本分担金 各単P2,000円(免除規定あり)				一人450円 (奈良市150円、奈良県230円、全国70円)				6,450円(日本連盟会費4,000円、奈良県連盟会費2,000円、保険料450円) 運営費として、各団5,000円を徴収(負担金)				〈県連登録費〉 指導者・スカウト 1,000円 〈地区会費〉 指導者・スカウト 800円				特別賛助会員 20,000円 一般会員(35歳以上) 10,000円 青年部会員(15歳以上35歳未満) 2,000円				
活動目的	奈良市のPTAの連携を密にし、PTAの民主化と向上を図る。また、園児・児童・生徒の健やかな成長を支援する。 各単位PTAの支援				奈良市内の単位子ども会の充実と発展を図り、子どもの健全育成と社会教育の振興に寄与することを目的とする。				団活動を通じて、ガールスカウトの「やくそく」と「おきて」をもとに、少女一人ひとりの自主性と人に役立つことに喜びを感じる心を育てることを目的とする。				ボーイスカウト運動を通じて青少年の優れた人格を形成し、かつ国際愛精神の増進を図り、青少年の健全育成に寄与することを目的とする。				ユネスコ憲章に定められた目的に従い、教育、科学および文化を通じ、諸国間の交流を図り、相互理解を深め、恒久的な世界平和に寄与することを目的とする。				
活動内容	幼・小・中高に分かれて年間4回の部会(研修会・学習会)を開催 広報研修会、会計研修会 人権教育研修会 年間3回発行の広報紙による広報活動				・子ども会活動の援助と指導育成 ・子ども会への情報提供 ・シニアリーダーの養成 ・子ども会安全共済会に関すること ・各関係機関、団体との連絡提携 ・その他理事が認めた事業				・緑の基金推進キャンペーン ・天平祭(ものづくり) ・わらべうたフェスタ ・各協力事業実行委員会等				・野外活動(キャンプ、自然体験、学習) 自然の中でバランス感覚を磨き、青少年の育成を図る ・国際交流の促進(国際大会への参加と派遣) ・環境保全、自然観察(清掃活動・緑化推進) ・社会奉仕(募金活動、災害救済、地域への奉仕・協力) 奈良市の行事協力 ・当団体に加盟していない一般の子供たちが参加できる体験会の開催(年4回) ＝ボーイスカウトとあそぼう!「ワクワク自然体験あそび」				目的達成のために、以下の活動を中心に行う。 ①絵画展の実施 ②世界寺子屋運動への参加(書き損じハガキ回収) ③キャンプや「奈良めぐり」を通じた青少年育成活動 ④近畿大会や全国大会への参加を通じた交流活動 ⑤社会見学等の教養活動				
令和4年度実績	幼・小・中高とも3回の部会を開催 第1回部会参加人数 幼47名・小67名・中高48名 第2回部会参加人数 幼34名・小59名・中高48名 第3回部会参加人数 幼28名・小42名・中高33名 第4回部会参加人数 幼42名(小、中は書面開催) 電話・来局による相談167件 広報紙151号・152号発行 人権教育研修会(動画視聴による研修) みんなで学べる研修会『先生方の働き方改革をPとTで考えよう』(後日動画と資料をホームページにて公開) 広報研修会6日間開催・会計研修会2日間開催				毎週火曜日11:00～15:00に事務局にて安全会追加、行事追加・変更などの受付 4月 総集会 中止 7月 第43回姉妹都市親善交流(小浜市) 中止 2月 第10回子ども会のついで 中止				5月 天平祭(27名) 8月～11月 わらべうたフェスタ実行委員会(各月1人) 10月 わらべうたフェスタ(16名) 7月 奈良市成人式の奉仕(6名)				4/29 第65回県大会 8/10-15 第18回日本スカウトジャンボリー(第19回奈良県キャンプ) はやまの森野営場 9/11 スキルチャンピオンシップ はやまの森野営場 10/15-16 防災キャラバン(イオンモール大和郡山) 奉仕者:延べ32名、参加者:延べ108名 わかさ地区大会(黒髪山キャンプフィールド)143人参加 その他:ビーバー隊合同集会(年少対象の体験会)を年4回実施				7月 キッズデイキャンプ・夏の陣(市青少年野外活動センター) 11月 キッズデイキャンプ・秋の陣(市青少年野外活動センター) 11/25-27 絵画展(奈良市生涯学習センター) 321名参加 3月 書き損じハガキ集約(担当 事務局)				
課題	女性の就業率が上がりPTA活動ができない保護者が増える中で、退会を選択する保護者が増えてきた。任意団体が周知され、また、マスク等でPTA不要論が叫ばれる中、保護者に必要性が伝わらない。 コロナで人間関係が絶たれた状況が3年間続き、保護者同士、保護者と教員のコミュニケーションがとれず信頼関係が築けない。人と人との繋がりの中で維持してきたPTAは、役員を引き受け手もなく、今後、存在意義も含めて存続の危機に直面していくと思う。				・会員の減少 ・資金は、会費と市補助金が大半を占め、会費の値上げも検討中 ・活動の活発さに地域差がある ・団体を支える後継者不足				・活動費補助がない ・奈良市助成金のみで運営 ・指導者の育成				退年度同様、少子化や青少年が興味を向ける活動の多様化(ゲームやスポーツなど)また学習塾への入塾など加盟員の減少に歯止めがかからない。指導者の高齢化や引退も加盟員減少の要因となっており、地区の運営と財政が圧迫されている。 (財政面ではここ数十年、不足額を団体負担金で補填している)				会員の高齢化に伴う次世代への活動の継承				
新たな取組	会計担当者を対象に2回に分けて研修会を開催				協力事業の天平祭、わらべうたフェスタにおいて、スカウトの参加を促し活動のPRにつなげている				・地区の渉外委員会を中心に引き続きスカウト活動のPRに努め、各団においてもチラシなども工夫して配布している ・「ボーイスカウトとあそぼう!ワクワク自然体験あそび」を定着させ、加盟員増大のきっかけとしている ・奉仕活動などを通じて地域とのかかわりを積極的に深め、推薦や口コミを得る努力を続けている ・県連盟・日本連盟もバックアップしてスカウト活動の必要性や知名度の向上を目指している ・若い指導者の育成に努めている ・ジェンダー平等の観点から男子のみが加盟できる団が着実に減少している				ユネスコ精神(教育、科学、および文化の普及による恒久的な平和の追求)に基づく活動を通じて、地域社会における教育・文化・化学・文化の発展・向上に寄与すると考えられるため。								
補助金交付の理由	子どもの健全育成を目的に設立されたPTA活動の活性化を図り、奈良市のPTAが相互に連絡を密にすることで、教育の民主化と振興に寄与することができるため。				本協議会の活動により、異年齢の集団である子ども会活動を活性化させ、規律ある集団生活を通して、子ども達の健全な育成に資するものであると認められるため。				本協議会の実施する規程ある団体活動を通じて、少女達に自主性や奉仕の精神を身に付けさせることで、青少年の健全育成に寄与すると考えられるため。				ボーイスカウト運動の精神に則った各種事業の実施を通じて、青少年の健全育成に寄与すると考えられるため。				ユネスコ精神(教育、科学、および文化の普及による恒久的な平和の追求)に基づく活動を通じて、地域社会における教育・文化・化学・文化の発展・向上に寄与すると考えられるため。				
新規/継続	継続				継続				継続				継続				継続				

開催日及び場所	事業名	内容	参加者
令和4年5月9日(月) 県立教育研究所 中講座室1	令和4年度 奈良県社会教育委員 連絡協議会第60回総会	1. 令和3年度事業報告について 2. 令和3年度決算報告・会計監査報告について 3. 令和4年度事業計画(案)について 4. 令和4年度収支予算(案)について 5. 近畿地区社会教育研究大会奈良大会について 6. その他	1名
令和4年7月28日(木) はぐくみセンター 8階 多目的講座室	令和4年度 第1回 奈良市社会教育委員会議	1. 正・副会長の選出について 2. 令和4年度補助金交付社会教育団体について 3. 令和3年度社会教育委員事業実績について 4. 令和4年度社会教育委員事業計画について 5. 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について 6. その他	7名
令和4年8月25日(木) 新庄文化会館 マルベリーホール	令和4年度 人権教育シンポジウム (人権教育啓発講座)	・開会行事 ・シンポジウム シンポジスト 石川 千明氏、金子 陽子氏、上羽 徹氏 コーディネーター 竹田 祥子氏	—
令和4年9月2日(金) なら100年会館 ・ホテル日航奈良	令和4年度 近畿地区社会教育研究大会 奈良大会 第33回奈良県社会教育研究大会 第69回奈良県公民館大会 合同大会	・開会行事 ・記念講演「社会教育には今、何が期待されているのか」 講師 金藤 ふゆ子氏(文教大学人間科学学部人間科学科 教授) ・分科会	1名
令和4年10月26日(水) ～28日(金) 広島YMCA国際文化センター ・広島国際会議場	第64回全国社会教育研究大会 広島大会	第1日・全国社会教育委員連合理事会・事務局会議 第2日・開会行事 ・記念講演 演題「広島サッカーの軌跡 ～百万一心の精神でつくる広島の未来～」 講師 仙田 信吾氏(サンフレッチェ広島 代表取締役社長) ・シンポジウム テーマ:これからの時代を見据えた学びのデザイン ～ニューノーマル時代における社会教育の在り方～ シンポジスト:小田 圭介氏、平尾 順平氏、山崎 瑞徳氏、藤田 昌也氏 コーディネーター:志々田 まなみ氏 第3日・分科会	1名
令和5年2月22日(水) 県立教育研究所 中講座室1	令和4年度 第54回 奈良県社会教育学校	講演 「デジタル化時代に対応するために」～社会教育へのヒント～ 講師 小崎 誠二(奈良教育大学教職大学院 准教授)	1名
令和5年3月24日(水) 奈良市役所 中央棟B1会議室	令和4年度 第2回 奈良市社会教育委員会議	1. 令和4年度大会等参加報告について 2. 奈良市社会教育推進計画に基づく事業の評価・点検に 関する活動について 3. 今後の公民館について 4. 今後の黒髪山キャンプフィールドの運営について 5. その他	6名

事業名	開催日	場所	予定人数 (人)
奈良県社会教育委員連絡協議会総会	令和5年5月24日	県立教育研究所	1
令和5年度 第1回奈良市社会教育委員会議	令和5年6月28日	奈良市役所 中央棟 B1会議室	10
令和5年度近畿地区社会教育研究大会 (滋賀大会)	令和5年9月8日	立命館大学 びわこ・くさつキャンパス	1
第70回奈良県公民館大会及び 第34回奈良県社会教育研究大会合同大会	令和5年10月31日	ホテルリガール春日野	1
第65回全国社会教育研究大会(宮崎大会)	令和5年11月9日 ～10日	宮崎市民文化ホール	1
第55回奈良県社会教育学校	令和6年1月下旬(予定)	橿原市周辺(予定)	1
令和5年度 第2回奈良市社会教育委員会議	令和6年2月頃(予定)	未定	10

資料 4

「奈良市社会教育推進計画に 基づく事業報告」

奈良市社会教育推進計画 事業評価シート

【1. まなぶ ～生涯学習活動の推進～】「全世界の人々に学びの扉を開く」 ●: 主な取組としてあがっている事業

【施策の展開】 「施策の方向性」		令和4年度事業を実施しての担当課による事業評価					AまたはBと評価した理由 (主な取組内容・成果等)	社会教育委員の意見・質問等	所管課からの回答	
事業	所管課	所管課による評価								
公民館における学習事業	地域教育課	評価項目NO.	A	B	C	D	E	生涯学習センターと23の公民館で、感染対策を講じながら幅広い年齢層を対象とした539事業を開催した。土日・夜間の講座や託児付き講座など、市民がライフスタイルに合わせて参加できる事業を実施するとともに、市民のニーズに応える多様な学習機会を提供することができた。参加者からは「奈良に暮らしていることを嬉しく思う」「子どもを預けて自分の時間をゆとり過ごすことができた」等の感想があった。学校園・地域団体などの依頼による公民館以外の場での講師や出張公演、地域のイベントへの出演などの機会も徐々に再開していることから、ボランティアなどに積極的に取り組むグループもあった。	【質問】 ・市民のニーズにはどのようなものがありますか。	歴史、考古学、音楽(コーラスやギター等)、健康(ストレッチやヨガ、栄養、脳トレ等)、絵画や絵手紙、創作、料理、スマートフォンの使い方、パソコン講座などがあります。また、子育てや若者支援、地域づくり、社会問題、親子で参加できる講座を望む声もあります。
		01	○							
		02		○						
		03		○						
奈良ひとまち大学事業	地域教育課	評価項目NO.	A	B	C	D	E	奈良の歴史・文化・自然・モノと、それを守り受け継ぎまた新たに創り出す“人”をテーマにした月3回の授業開催を基本とし、毎月学びの場を提供した。令和4年度は32授業を企画・実施し、定員を上回る応募があった。また、屋外や飲食店、社寺等を教室として、ソムリエやキャンプ場管理人、パン職人など多種多様な業種・団体との連携により幅広いジャンルの授業を行い、「奈良の良さが改めてわかった」「他所から奈良に引っ越してきて、同じような環境に共感できて楽しかった」などの声があり、どの授業でも奈良を愛する学習活動を推進することができた。		
		01	○							
		02		○						
		03		○						
		06	○							
家庭教育支援事業	地域教育課	評価項目NO.	A	B	C	D	E	アンケートや市民、地域団体への聞き取りから子育てにおける課題を洗い出した。各地域で公民館・支援者・地域住民が子育ての現状について情報共有し、今後どのような支援が必要であるかを考えることを目的とし、地域の子育て中の当事者や支援者の声を聞く仕組みづくりを進めることができた。各館、異なるテーマ・対象を設定し、さまざまな課題に対応した。さらに、ブロック別研修や会議の場で情報共有を行い、市全体への取組拡大に向けた体制がほぼ整ってきている。	【質問】 ①子育てにおける課題を洗い出したとありますが、具体的にどの様な課題が見出されたのでしょうか。 ②子育ての現状をどのように捉えておられますか。	①コロナ禍における子育て世代の集う機会や公園等遊ぶ場所の減少、タブレットの導入による家庭での過ごし方の変化や課題、様々な体験の場の減少など、日常的に悩みを相談したり解消したりする場が少なくなっている等の課題がありました。また、地域と子ども・保護者との関わり方の難しさ、学校現場の情報や現状を理解する機会が少ない等の課題もありました。 ②核家族世帯の増加、不登校やひとり親世帯、仕事と子育ての両立、子どもの発達等、支援の必要な世帯が増えています。また、子どもの塾や習い事、それに伴う親の送迎等に係る時間が増えています。
		04	○							
		05		○						
子育てスポット事業	子ども育成課	評価項目NO.	A	B	C	D	E	(04)地域の団体に委託して、市内21カ所で「子育てスポット」を開催した。また、食育に関する講座の実施や、お正月遊び、ひなまつり等の伝統行事など、親子育ちにつながる取り組みを実施した。 (05)地域の団体に委託して事業を実施していることから、利用者と地域の子育て支援者とのつながりができ、地域で子育てを行っていく上での安心感につながる。感染症対策を徹底し、利用者とのつながりが途切れないうち安心して利用できる環境づくりを行った。	【質問】 ・昨年地域の子育てスポットに中学生がボランティアに行きました。伺った日は2日間とも利用者がおらず(コロナの影響下かもしれませんが)その際、もっと利用者が増えてほしいと言われていたので校区内の幼稚園に預かったチラシを配布してもらいました。 行政側から子育て世代に子育て広場等の案内はどのようにされているのかわかりたいです。	昨年度も新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者の少ない日も全体的にありましたが、一人でも多くの方に利用していただくため、奈良市のホームページや市民だよりをはじめ各SNS(ツイッター、Facebook、Instagram)や子育てに関する情報を一手にまとめた情報カレンダー(スポット)を作成し、日々更新をしています。また各子育て広場からも独自にSNSで情報発信をしたり、情報提供をしています。
		04		○						
		05	○							
子育てスポットすくすく広場事業	子ども育成課	評価項目NO.	A	B	C	D	E	(04)地域子育て支援拠点において、子育て等に関する相談を実施し、利用者が抱える不安や問題に対応した。また利用者に対して積極的に声掛けを行うなど、継続して事業を利用しやすいように取り組んだ。加えて福祉センターの機能を活かし、高齢者との異世代交流を図った。 (05)コロナ禍においても事業を継続し、子育て親子とのつながりを切らさないよう、感染症対策を徹底するとともに、広場を利用できない人のためにオンラインを活用した講座や相談等支援を展開し、安心して子育てができる環境づくりに寄与した。	【質問】 ・オンライン講座にはどのようなものがありますか。	子育て広場の紹介・ふれあい遊びを交えて子育てのお話会を実施しています。
		04		○						
		05	○							

評価方法	A	良くできた
	B	できた
	C	できなかった
	D	全くできなかった
	E	その他(直接的な項目ではないためA～Dを選択できないもの)

奈良市社会教育推進計画 事業評価シート

【1. まなぶ ～生涯学習活動の推進～】「全世帯の人々に学びの扉を開く」 ○:その他の関連事業

【施策の展開】 「施策の方向性」		令和4年度事業を実施しての担当課による事業評価					AまたはBと評価した理由 (主な取組み内容・成果等)	社会教育委員の意見・質問等	所管課からの回答	
事業	所管課	所管課による評価								
公民館における学習事業	地域教育課	評価項目NO	A	B	C	D	E	令和4年度は家庭教育に関する事業を109件開催し、延べ6,506人の参加があった。子育て中の悩みの軽減をめざした事業や、親子で一緒に体験する事業など、目的・対象や市民のニーズ・課題に合わせた多彩な事業を開催した。自主グループや地域のボランティア、地域団体と協力して開催することで、地域で安心して子育てができる環境づくりにつなげられるよう努めた。また、地域の歴史や寺社、伝統芸能、食文化などをテーマにした事業を開催し、住民が地域に関心を持ち知識を深め、誇りや愛着を持つようになることをめざした。		
		04	○							
		05		○						
		06	○							
		07		○						
		08	○							
奈良ひとまち大学事業	地域教育課	評価項目NO	A	B	C	D	E			
		04					○			
		05					○			
家庭教育支援事業	地域教育課	評価項目NO	A	B	C	D	E	公民館を拠点として、地域住民等が家庭教育に関する課題を話し合い、解決に向けて取組を進めた。例えば飛鳥公民館では、気軽に挨拶できる関係の構築を課題とし、学校長から小学校の現状を学び、地域住民と子育て世代がゲームを通して交流する機会とした。都祁公民館では、地域の中で子育て世代が集まる機会が少ないことから、地域の子育て支援団体の見守りのもと、親子が安心して身体を動かしながら交流した。地域の現状や課題に応じてそれぞれの解決方法を見つけながら、地域で子育て支援に関わる人を増やす取組を進めた。		
		01	○							
		02		○						
		03					○			
		06		○						
		07	○							
子育てスポット事業	子ども育成課	評価項目NO	A	B	C	D	E	事業の実施主体が地区社協や民児協等地域の団体であることや地域の公民館や教育・保育施設が実施場所であることを活かし、地域における子育て親子の居場所づくりや見守り等、地域の多種多様な関係者・機関による一体的な子育て支援の取組みを行った。また、事業の実施にあたっては、子育て支援アドバイザー事業(地域の子育て経験豊かな市民を乳幼児が集まる場所等に派遣し、子育て親子に対する相談支援・援助等を行い、世代間交流による地域コミュニティの活性化を図る。)の積極的な活用を図った。		
		01		○						
		02	○							
		03		○						
		06		○						
		07	○							
子育てスポットすくすく広場事業	子ども育成課	評価項目NO	A	B	C	D	E	事業における地域支援の一環として、地域資源(ボランティア等)の掘り起こし、地域の子育て支援団体等との連携及び地域の子育て関連情報の収集・提供を行うなど、地域に根差した事業の実施に努めた。また、オンラインを活用した講座の実施や相談支援を行なうことで、コロナ禍においても継続的な子育て支援を行った。		
		01		○						
		02		○						
		03	○							
		06		○						
		07		○						

文化財普及啓発事業	文化財課	評価項目NO	A	B	C	D	E	<p>【文化財講座】 令和3年度の開催は1回だったが、4年度は4回実施した(69名受講)。そのうち1回は、都跡公民館と共催で市指定文化財の古民家を会場にかまど炊飯の体験講座を開催した。別の1回は帯解駅舎保存・活用の会、もう1回は赤膚山元窯保存会と共催した。ホームページやツイッターで当日の様子を紹介するなど、実施後も情報発信に努めている。</p> <p>【文化財解説板】 5基設置した(H19年度からの継続事業、計79基)。</p> <p>【世界遺産振興事業】 世界遺産学習での子ども向けリーフレットの活用を定例校長会で市立小学校校長に働きかけ、PDFデータを送付するとともに、希望校に印刷物を配布した。</p>		
		01		○						
		02		○						
		03					○			
		04					○			
		05					○			
文化財施設における学習事業	文化財課	評価項目NO	A	B	C	D	E	<p>【史料保存館】 保管資料の保存・活用、ならまち観光の中心施設の一つとして、令和4年度は、企画展示計3回、季節に応じた奈良の史料を公開する特別陳列計12回、周辺の行事に合わせてテーマに沿った館蔵品を紹介する館蔵史料特別公開12回、ならまちわらべうたフェスタ参加展示計1回、奈良町にぎわいの家での出張展示計4回、展示解説付きガイドツアー(なら・観光ボランティアガイドの会と共催)計3回、古文書入門講座を開催した。入場者は21,730人だった。なお、新型コロナウイルス感染症予防のため、子供及び同伴者向けクイズ、集客型イベントの一部は中止した。</p> <p>【埋蔵文化財調査センター】 令和4年度に発掘調査速報展、特別展、富雄丸山古墳における発掘調査体験学習と発掘調査現地公開を実施して埋蔵文化財公開活用を図った。特に特別展は最多来館者数を達成し、富雄丸山古墳の現地公開は2日間で見学者4,503人と注目を集めた。また、保管資料や記録写真等を博物館・出版社等62箇所へ貸出して広く活用していただいた。市民考古サポーターの登録者は令和4年度に103人となり、平成30～令和4年度合わせて延べ7,329人の支援活動を得て各事業を実施した。</p>		
		01		○						
		02		○						
		03					○			
		04					○			
		05					○			
地域で決める学校予算事業	地域教育課	評価項目NO	A	B	C	D	E	<p>中学校区毎に地域教育協議会、各学校園毎に運営委員会が組織され、地域のお祭りや校区の運動会、地域の歴史を知るイベント等の地域学校連携協働活動の取組を実施しました。活動については、各地域教育協議会・各運営委員会に属する地域コーディネーターが学校園とともに、地域の伝統行事や歴史、特産物等の地域の特性も鑑みて企画・展開しており、この事業により、学習の機会を創出するとともに、地域住民も子どもたちも、地域に関心を持ち、郷土への愛着を深めることにもつながっている。</p> <p>【意見】 ・地域予算事業は、運営委とともに、学校教育に多大な成果をもたらすものとして、今後も継続をお願いしたい。予算化もされているので、非常に有難いです。</p>		
		06		○						
		07		○						
		08	○							
		09		○						
放課後子ども教室推進事業	地域教育課	評価項目NO	A	B	C	D	E	<p>市内の全小学校区(42校区)で、各小学校運営委員会により、放課後子ども教室を延べ964日開催し、延べ35,602人(R3年度の約1.7倍)の児童が参加し、学習支援やスポーツ教室、藍染め体験、収穫体験等の活動により、子どもたちに学習の機会を提供した。</p> <p>放課後子ども教室での各種プログラムは、地域の伝統行事や歴史、特産物等の地域の特性も鑑みて企画・展開しており、この事業により、地域住民や子どもたちが、地域についての知識を深め、郷土愛を育むことにつながっている。</p> <p>【意見】 ・放課後事業について、運営委員を中心に企画し子どもたちの様々な経験の場となっています。引き続き継続していただきたいと思います。</p>		
		06		○						
		07		○						
		08	○							
		09		○						
地域自治組織設立推進事業	地域づくり推進課	評価項目NO	A	B	C	D	E	<p>地域活動を促進するために、各地域自治協議会で広報誌等により地域の情報を発信し、新たな担い手づくりに取り組んだ。</p>		
		06		○						
		07		○						
		08					○			
		09					○			

奈良市社会教育推進計画 事業評価シート

【施策の展開】 「施策の方向性」		【2. つながる ~学びを通じた交流の推進~】「地域のネットワーク化・交流の推進」 ●: 主な取組としてあがっている事業					令和4年度事業を実施しての担当課による事業評価		社会教育委員の意見・質問等	所管課からの回答
事業	所管課	所管課による評価					AまたはBと評価した理由 (主な取組内容・成果等)			
		評価項目NO	A	B	C	D		E		
公民館における学習活動	地域教育課	10	○				自主グループが、学習の積み重ねによって得た知識や経験を生かし、講座の講師として活躍する機会を情報発信等により支援している。さらに、開館50周年事業や自主グループ連絡協議会と連携した講座を開催するなど、自主グループの枠を超えた協力体制を作った。学校園・地域団体との会議等での情報共有により、地域行事に併せて青少年を対象にした講座を開催し、交流の機会とした。市民と一緒に企画・実施することにより、課題やニーズを反映した講座を開催した。また、事業終了後も学び続けることができるよう、自主グループの育成を図り、継続した学習機会を創出した。			
		11	○							
		12		○						
		13		○						
		14	○							
		15		○						
		16		○						
地域で決める学校予算事業	地域教育課	10		○			中学校区毎に地域教育協議会、各学校園毎に運営委員会が組織され、学校園と地域の連携・協働活動が体系的に進められた。活動については、各地域教育協議会・各運営委員会に属する地域コーディネーターが学校園とともに、地域・学校の特性に鑑みて計画し、学習支援事業、読書活動推進事業、各種体験事業等、子どもの教育活動の充実に資する様々な事業が実施された。また、活動の要となる地域コーディネーターを対象とした研修を年6回実施し、コーディネーター自身の学びの場とすると同時に、他校区との交流の機会とした。さらに、コロナ禍でも、停滞した校区同士の交流の場として、コーディネーターミーティング7回開催し、学び合い、つながり合う機会を創出した。			
		11		○						
		12		○						
		13		○						
		14		○						
		15		○						
		16		○						
放課後子ども教室推進事業	地域教育課	10		○			市内の全小学校区(42校区)で、各小学校運営委員会により、放課後子ども教室を延べ964日開催し、延べ35,602人(R3年度の約1.7倍)の児童が参加し、学習支援やスポーツ教室、藍染め体験、収穫体験等の活動により、子どもたちと地域住民が交流する機会を創出した。また、放課後子ども教室の活動を支える地域コーディネーターは、各教室で多様なプログラムを企画・提供し、子どもたちが地域の中で心豊かに健やかに育まれる環境を醸成した。さらに、地域コーディネーターを対象とした研修を年6回実施し、他地域のコーディネーター、教職員や公民館職員等と交流する機会を創出できた。			
		11		○						
		12		○						
		13	○							
		14		○						
		15		○						
		16		○						
地域自治組織設立推進事業	地域づくり推進課	14				○	令和3年度より、希望する地域自治協議会に、これまで自治連合会に交付していた地域活動推進交付金及び自主防災・防犯組織に交付していた自主防災・防犯組織活動交付金を一括して交付するため、「地域づくり一括交付金」制度を創設し、申請を一本化することで事務負担を軽減するとともに、より柔軟に交付金を活用できるようになった。地域自治協議会のもと、地域の各種団体が連携し補完しながら、地域課題の解決に取り組まれている。令和4年度より、さらなる地域自治協議会の設立地域の拡大を目指し、設立認定の要件見直しの検討を開始した。	【質問】 ・奈良市で地域自治協議会を設立した地域は何か所ありますか？ ・設立地域が少ないように思うのですが推進されない理由などがありますか？	令和5年4月1日時点で、地域自治協議会の設立地域は14地域となっております。設立地域が14地域に留まっている理由としては、地域によっては、設立せずとも既に円滑に地域課題の解決や地域コミュニティが機能していることや、地域自治協議会に関しての認知及び担い手不足、また、設立するための認定要件を満たせない等が挙げられます。これらを踏まえて、地域自治協議会の促進活動の一環として、各地域を担当する地域づくりコーディネーターを通して、地域自治協議会の設立・運営に対する助言・支援や、地域課題の把握及び解決に向けた支援、地域課題解決のための関係部署との連絡調整などの支援を行っています。また、地域自治協議会の設立認定要件の見直しを図ることで、さらなる設立地域の拡大を目指し、促進活動を推進しております。	
		15		○						
		16		○						
		17				○				
ボランティアポイント事業	地域づくり推進課	16				○	所管施設である、ボランティアインフォメーションセンター及びボランティアセンターの講座等の参加者に対してポイントを付与した。奈良市社会福祉協議会と連携し、地区社会福祉協議会が、実施するサロン活動のボランティアに対してもポイントを付与した。令和4年度より、ボランティア団体とボランティアをしたい個人を繋ぐボランティア登録制度の個人の新規登録時及び登録更新時のポイント付与を開始した。			
		17		○						

ボランティアセンター事業	地域づくり推進課	評価項目NO:	A	B	C	D	E	ボランティア活動の啓発事業であるボラカフェを開催した。			
		16		○							
		17		○							
ボランティアインフォメーション事業	地域づくり推進課	評価項目NO:	A	B	C	D	E	ボランティアのきっかけづくりを目的としたボランティア入門講座を開催した。 市民公益活動団体向けに広報デザイン講座やNPO会計講座、NPOのための資金調達講座を開催した。 メディアルームを開設し、登録団体による活動紹介動画等の作成及び発信の拠点として機能した。			
		16		○							
		17		○							

奈良市社会教育推進計画 事業評価シート

【施策の展開】 「施策の方向性」		【2. つながる ～学びを通じた交流の推進～】「地域のネットワーク化・交流の推進」										〇:その他の関連事業		
		令和4年度事業を実施しての担当課による事業評価												
事業	所管課	所管課による評価					AまたはBと評価した理由 (主な取組み内容・成果等)					社会教育委員の意見・質問等	所管課からの回答	
	地域づくり推進課	評価項目NO	A	B	C	D	E							
地域自治組織設立推進事業	地域づくり推進課	13					○	【意見】 ・主な取り組みとしてあがっていないが、中学校のクラブ活動が地域移行になるに伴い、中学校と地域との関係を更に強めていかなくてはならないと思います。(指導者、クラブチーム化、保護者の費用負担の発生等)なので、地域自治組織設立推進事業は今後主な取り組みとしてやっていった方がよいのではないのでしょうか。						
		14					○							
		15					○							
		16					○							
ボランティアポイント事業	地域づくり推進課	13					○							
		14					○							
		15					○							
		16					○							
ボランティアセンター事業	地域づくり推進課	13					○	奈良市ボランティア連絡協議会と共催によるボランティアフェスティバルを開催した。 ボランティア活動の啓発事業としてボラカフェを開催した。						
		14		○										
		15					○							
		16		○										
ボランティアインフォメーション事業	地域づくり推進課	13					○	ボランティアのきっかけづくりを目的としたボランティア入門講座を開催した。 市民公益活動団体向けに広報デザイン講座やNPO会計講座、NPOのための資金調達講座を開催した。 メディアルームを開設し、登録団体による活動紹介動画等の作成及び発信の拠点として機能した。						
		14					○							
		15					○							
		16		○										

奈良市社会教育推進計画 事業評価シート

【施策の展開】 「施策の方向性」		【3. ささえる ~生涯学習(まなび・であい・つながる場)の拠点づくり~] 「地域住民がいつでも立ち寄れる居場所づくり・交流の場づくり」 ●: 主な取組としてあがっている事業					令和4年度事業を実施しての担当課による事業評価		社会教育委員の意見・質問等	所管課からの回答
事業	所管課	所管課による評価					AまたはBと評価した理由 (主な取組内容・成果等)			
		評価項目NO.	A	B	C	D	E			
公民館運営管理事業	地域教育課	18	○					地域住民が気軽に立ち寄れる交流の場、生涯学習活動の拠点として、市民の立場に立った施設運営を行い、令和4年度は延べ418,907人が利用した。また、ヤングケアラーや防犯など現代的課題に対応した講座を開催した。多彩な主催事業を平日だけでなく土日や夜間にも開催する他、公民館だより等で施設の利用方法などの広報を行った。さらに、自主グループの育成に取り組み、新規グループの登録に努めた。また、大型館へのフリーWi-Fi導入により、市民のニーズに対応した貸館を行った。		
		19	○							
		20		○						
		21		○						
		22	○							
公民館窓口での各種学習相談	地域教育課	18	○				学習機会を探している方の電話・メール相談や窓口での学習相談に対応することで、講座や自主グループ活動への参加につなげることができた。また、自主グループに参加したい方や自主グループを作りたい方の相談にも、内容に応じた情報提供に努めた。さらに、市民が求めている学習情報に手軽にアクセスできるよう、メールマガジン(令和4年度末時点、読者数5,364人)、公民館だよりやチラシ、地域の掲示板、市役所での展示などを活用して行った。			
		19	○							
		20		○						
		21		○						
		22	○							
図書館運営事業	中央図書館	23		○			図書消毒機などの感染対策及び自動貸出機、返却機、自動貸出棚などによる非接触型運営を実現してきた。図書の郵送貸出等の事業を行うことにより、来館が困難な状況でも図書資料を活用いただけるような方策を講じ、オーディオブックや電子書籍の導入により、図書館への来館困難な人でも24時間図書館を利用できる環境整備に努めた。また一部の公民館と連携し図書の貸出等の協力体制をとっている。	【意見】 ・昨年の1月に見学させていただきましたが、貸出から返却までの流れが非常にシステム化されていて良い環境であったと思いました。評価はBとなっておりますが、A評価をつけていただいても良いのではないかと考えています。		
		24		○						
		25		○						
		26		○						
		27		○						
青少年野外体験施設の運営管理事業	地域教育課	27		○			ホームページやしみんだより等を使用し、自然体験事業等の案内を行い、多くの申込みがあった。利用者は昨年度と比べて、青少年野外活動センターが約1,450人、黒髪山キャンプフィールドが約1,750人増加した。学校行事を実施できる環境になり、多くの学生が野外活動を行えることになったため、コロナ禍前の利用者数へと戻りつつある。	【意見】 ・昨年度と比べ利用者が大幅に増加したとの中で、これは一つに広報の賜物だと思います。A評価をつけられても良いと思います。		
		28	○							
		29	○							
くろかみやま自然塾	地域教育課	27		○			市ホームページやSNSにて年間のスケジュールや各事業の活動報告を周知した。コロナ禍のため各定員を30名に縮小して実施した。7月プログラムについてはスタッフに感染者が多数いたため、やむを得ず中止となった。今年開塾20周年を迎え、3月に記念プログラムを実施した。プログラム内容は趣向を凝らして計画しており、定員数以上の申込みがある場合は抽選となった。自然の中で思い切り体を動かすプログラムは事業後のアンケートでも満足度が高く、好評を得ている。			
		28		○						
		29	○							

奈良市社会教育推進計画 事業評価シート

【施策の展開】 「施策の方向性」		【3. ささえる ～生涯学習(まなび・であい・つながる場)の拠点づくり～】 「地域住民がいつでも立ち寄れる居場所づくり・交流の場づくり」 ○:その他の関連事業					令和4年度事業を実施しての担当課による事業評価					社会教育委員の意見・質問等	所管課からの回答
事業	所管課	所管課による評価					AまたはBと評価した理由 (主な取組み内容・成果等)	CまたはDと評価した理由 (課題・改善点など今後の方向性も含む)					
公民館運営管理事業	地域教育課	評価項目NO	A	B	C	D	E						
		23					○						
		24					○						
		25					○						
		26					○						
		27					○						
		28					○						
29					○								
公民館窓口での各種学習相談	地域教育課	評価項目NO	A	B	C	D	E						
		23					○						
		24					○						
		25					○						
		26					○						
		27					○						
		28					○						
29					○								
図書館運営事業	中央図書館	評価項目NO	A	B	C	D	E	公民館に設置される図書館については市立図書館とは別組織であるが、一部の公民館において移動図書館の拠点として図書の出借・返却の窓口として相互協力するほか、活動推進のため図書の貸出等の体制をとっており、公民館活動にも一定の寄与をしている。					
		18		○									
		19		○									
		20					○						
		21					○						
22		○											
青少年野外体験施設の運営管理事業	地域教育課	評価項目NO	A	B	C	D	E	ホームページ・SNSを通じて施設の情報発信を行っている。施設については、安全・快適に使用していただけるよう常に点検・清掃を実施している。アンケートでも、施設の利用が良くてまた利用したいという意見が多く寄せられている。	青少年野外体験施設のため、利用できる方が限られている。そのため、全ての市民に学びの場として提供することは出来ない。障害のある方の使用はなかったが、使用制限はないため、野外活動の場であることを理解して使用していただける。また、事前に相談があれば対応していく。				
		18		○									
		19		○									
		20					○						
		21		○									
		22					○						
		23		○									
24	○												
25		○											
26	○												
くらかみやま自然塾	地域教育課	評価項目NO	A	B	C	D	E	スムーズに運営・進行できるよう、前日に会場準備を行い、当日は担当分けをして進行している。アンケートにて参加者の声を聞いて、ワクワクする楽しいプログラムを実施している。市ホームページ・SNSにて活動している様子を情報発信している。	参加対象が小学生のみのため、その他の年齢の青少年が参加することが出来ない。応募方法が往復はがきのみで開催日10日前必着のため、手軽に応募することが出来ない。ハンディキャップの子供や集団になじめない子供が参加していて、この対応に戸惑うところがあった。その中でも一部の子どもたちは、結構積極的に声をかけているところも見受けられて、共生の教育の必要性を感じた。しかしスタッフの手が足りないこともあるので、今後の課題として検討する必要がある。				
		18		○									
		19					○						
		20			○								
		21			○								
		22					○						
		23	○										
24	○												
25		○											
26	○												

■評価項目一覧表

分類	項目番号	評価項目
まなぶ	01	多様な学習機会の提供をする
	02	学習の成果を地域の活動等に生かす
	03	リモートでの活動ができる環境を整備する
	04	地域での家庭教育支援の取組を進める
	05	安心して子育てができる地域のつながりを創出する
	06	住民が地域に関心を持つ
	07	地域のために何かをしたい人を増やす
	08	「郷土愛を育む学習」を推進する
	09	地域について知識を深め、誇りや愛着を持つ
つながる	10	地域と学校との連携・協働を進める
	11	子どもたちの教育活動の充実を図る
	12	地域の教育力の再生、地域コミュニティの活性化を進めるため、地域教育協議会による子どもを守り育てる体制づくりの推進を図る
	13	子どもたちが心豊かに育まれる環境づくりを推進するため、地域住民の参画による放課後等の取組（勉強・スポーツ・文化活動・交流活動等）を実施する
	14	学習を通じて学ぶもの同士が交流できる機会を提供する
	15	地域の教育力を生かし、地域のネットワークを構築する
	16	学びの成果を地域社会の様々な場面で発揮し還元する仕組みをつくる
	17	学んだ成果で地域の活性化を図り、個人の学習意欲の推進を図る
ささえる	18	市民の生涯学習の拠点となる
	19	誰もが自由に学ぶことができる
	20	ICT環境を整備し、新しい公民館活動を推進する
	21	障害のある人もない人も気軽に公民館を利用できる環境を提供する
	22	全ての市民が共に学ぶことができる場を提供する
	23	多様化する情報・変化する住民ニーズに対応する
	24	誰もが快適に利用できるよう整備する
	25	資料の充実やIT技術を活用する
	26	より良いサービスを提供する
	27	施設情報の広報を充実する
	28	より多くの市民に使用してもらう
	29	自然環境の中での体験活動の機会を提供する

資料 5

「今後の公民館運営について」

新たな社会教育・生涯学習と地域の拠点づくり（案）

目的

市民のライフスタイルが多様化し、社会情勢が変化している中で、社会教育・生涯学習の新たなニーズにより一層応える必要がある。また施設整備をするにあたって、変化する社会状況や地域住民の多様なニーズにこたえるため、これまでの社会教育の枠組みを超えた新たな施設を考える時期にきている。各地域においては地域自治協議会設立推進に伴い、地域の活動拠点が求められている。加えて、国からは公民館と地域運営組織との連携が重要と示されている。そこで公民館機能を備えた地域ふれあい会館を整備し、より良い社会教育・生涯学習と地域の拠点づくりが必要である。

公民館に関する課題

- 利用者の固定化
- 利用者の年齢層に偏り
- 施設の老朽化
- 市民のライフスタイルが多様化
- 現在のニーズに沿った社会教育・生涯学習の提供
- 学んだことを地域や社会で生かす気運の醸成
- 効率的で効果的な行政運営の必要性の一層の高まり
- 今後も持続可能な施設運営・施設維持の必要性
- 社会教育等に限定されない施設の幅広い利用ニーズ



地域や地域の拠点施設をとりまく課題

- 人口減少・少子高齢社会の到来
- 核家族化や地域の人と人とのつながりの希薄化
- 地域自治・住民自治の新たな進展
- ICT社会の到来
- 地域課題や地域ニーズの多様化・複雑化
- 防災意識の高まり



目指すもの

拠点としての公民館を備えつつ、公民館施設と地域ふれあい会館が融合した、地域自治の拠点機能、社会教育・生涯学習の拠点機能を備えた地域ふれあい会館に移行する。

地域ふれあい会館に公民館の機能を付加

公民館



社会教育・生涯学習の推進

生涯学習施設として、ニーズの高い社会教育・生涯学習の一層の充実と、子育て世代・若者の支援の充実を図り、社会教育・生涯学習推進の拠点とする

社会教育・生涯学習の専門性を活かした一層の事業の充実

生涯学習財団職員は、地域で管理する施設のニーズに応じ社会教育・生涯学習の企画や提供を行う等、社会教育・生涯学習の推進に向け、機動的に実施できる体制を整える（財団職員は常駐から派遣へ）

地域ふれあい会館



地域ふれあい会館

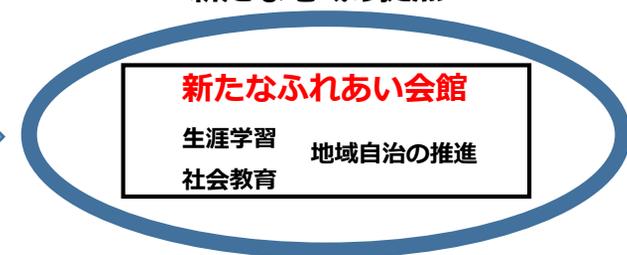
地域自治の充実・発展と施設の有効活用

- 地域住民の交流活動・福祉活動の拠点に加え、地域自治協議会の活動拠点として、一層の地域自治の振興、地域活性化を図る
- 地域住民が行政と共に公共サービスを提供することによって、より地域の実情に応じた多様な担い手による市民サービスが可能となる
- 地域コミュニティの活性化に向けて、地域自治協議会等が主体となり、また、行政も一緒になって、地域のにぎわいや活力を取り戻していくことを目指す

現状



新たな地域の拠点



新たな地域の拠点整備によって見込める効果

メリット

- 現有の市有施設を有効に活用又は集約することで、効率的に新たな地域自治と生涯学習・社会教育の拠点を整備できる。又は、新たな施設を整備することができる
- 地域が担い手となることで、より一層の住民自治の振興や住民の新たな活動やつながり等が生まれる
- 地域の活力を活用して地域に指定管理することで、生涯学習財団の職員が持つ知見やノウハウを生涯学習や社会教育の振興・推進のために集中投下できる
- 現有の市有施設を有効に活用することで、施設の維持・補修が効率的になる

配慮すべき点

- 指定管理業務のための地域の担い手が必要になる
- 生涯学習財団職員が、「常駐」から事業実施時等における「派遣」となる
- 施設の立地が変わる場合があり、住民の利便性に変化が生じる場合がある
- 地域住民の方にとって愛着のある公民館施設が新たな施設に生まれ変わる、又は、廃止となる

これまでの取り組み

三笠公民館大安寺西分館が大安寺西地域ふれあい会館に移行（平成31年4月）

興東公民館東里分館が東里地域ふれあい会館に移行（平成31年4月）

若草公民館佐保分館が佐保地域ふれあい会館に移行（令和2年4月）

南部公民館明治分館が明治地域ふれあい会館に移行（令和4年4月）

二名公民館西登美ヶ丘分館が二名地域ふれあい会館に移行予定（令和6年4月）※令和5年7月をもって分館廃止

移行方法

【施設面】

- ①公民館施設を転用して、地域ふれあい会館に移行
- ②公民館施設を廃止して、地域ふれあい会館を新設

【運営面】

- 地域自治協議会が指定管理者となり施設を運営管理
- 生涯学習財団職員が出向き地域のニーズに応じた社会教育事業を展開

【実施面】

- 地域自治協議会が設置され、実施の合意調整が整った地域の施設から順次、実施
- モデルとなる地域を位置づけて実施し、そこで得たノウハウや知見を以降の取組にフィードバック



公民館から地域ふれあい会館への今後の移行イメージ（案）

基幹型公民館（6館）

- ・ 統括施設 生涯学習センター
- ・ 中央拠点施設 中部公民館
- ・ 西部拠点施設 西部公民館
- ・ 北部拠点施設 平城東公民館
- ・ 南部拠点施設 南部公民館
- ・ 東部山間拠点施設 都祁公民館

その他の公民館 今後5年をめどに移行

ステップ1

- ・ 公民館と地域自治協議会が密接である施設で、モデルとなるような移行ができる施設

ステップ2

- ・ 今後新たに地域自治協議会が設立され、地域拠点の要望があり、具体的に進める見込みのある地域にある施設

ステップ3

- ・ その他の公民館の施設

●各施設の概要

令和4年4月1日現在

	公民館（24館）	公民館分館（24館）	地域ふれあい会館（18館）
設置根拠法令	社会教育法 奈良市公民館条例 奈良市公民館条例施行規則		地方自治法 奈良市地域ふれあい会館条例 奈良市地域ふれあい会館条例施行規則
設置目的	公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もつて住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として設置する。		すべての市民が地域社会のふれあいの中で日常生活を送ることができるよう、地域の交流活動及び福祉活動の拠点として、地域ふれあい会館を設置する。
所管部署	奈良市教育委員会 教育部 地域教育課		奈良市市民部 地域づくり推進課
運営管理	指定管理者（公益財団法人奈良市生涯学習財団）	指定管理者（自治会等、地域団体）	指定管理者（自治会等、地域団体）
料金	使用料	無料	利用料

●公民館・分館と地域ふれあい会館の違い

公民館・分館

【理想の姿】

専門職員が配置されており、地域の課題やニーズを基に事業を行い、地域住民が気軽に立ち寄り、集える身近な施設。

社会教育法で公民館の事業や運営方針が決められている。

公民館・分館は学習活動の場や事業を提供する必要がある。

地域ふれあい会館

【理想の姿】

地域コミュニティ活動の活性化を進めるために、地域の交流活動及び福祉活動の拠点となる施設。

公民館や分館に比べ、設置目的に適っていれば様々な利用に供することができ、利用制限が少ない。

●公民館分館から地域ふれあい会館への移行事例

[平成31年4月1日] 三笠公民館大安寺西分館→大安寺西地域ふれあい会館

[平成31年4月1日] 興東公民館東里分館→東里地域ふれあい会館

[令和2年4月1日] 若草公民館佐保分館→佐保地域ふれあい会館

[令和4年4月1日] 南部公民館明治分館→明治地域ふれあい会館

総計ゾーン	地区			現状		
	地域自治協議会	中学校区	小学校区	公民館	分館	ふれあい会館
中央市街地	あすか地域自治協議会	飛鳥中学校	飛鳥小学校	飛鳥公民館	白毫寺分館	
		若草中学校	鼓阪小学校	若草公民館		
			鼓阪北小学校			
	佐保地域自治協議会		佐保小学校			佐保地域ふれあい会館
	済美地区地域自治協議会	春日中学校	済美小学校	春日公民館 生涯学習センター	西木辻分館	済美地域ふれあい会館
			大安寺小学校		大安寺分館	
	済美南地区自治協議会		済美南小学校		済美南分館	
		三笠中学校	椿井小学校	中部公民館		
	大宮地区自治協議会		大宮小学校	三笠公民館		
大安寺西川辺のまちづくり協議会	大安寺西小学校					大安寺西地域ふれあい会館
	佐保川小学校					佐保川地域ふれあい会館
西北部		ならやま中学校	ならやま小学校	旧右京小 旧神功小		右京地域ふれあい会館
				平城西公民館		
	朱雀地区まちづくり協議会		朱雀小学校	平城東公民館		朱雀地域ふれあい会館
	佐保台地区地域自治協議会	平城東中学校	佐保台小学校			佐保台地域ふれあい会館
	左京地区地域協議会		左京小学校			左京地域ふれあい会館
		富雄中学校	富雄北小学校		元町分館	
			鳥見小学校	富雄公民館		
		登美ヶ丘北中学校	登美ヶ丘小学校	登美ヶ丘公民館		
			東登美ヶ丘小学校			とみの里地域ふれあい会館
		二名中学校	青和小学校	二名公民館		青和地域ふれあい会館
			二名小学校		二名分館	
	二名地域自治協議会				西登美ヶ丘分館(R7年度に地域ふれあい会館へ移行予定)	
	(準備会)	富雄南中学校	富雄南小学校	富雄南公民館		
	予定有		三稚小学校		学園大和分館	
	学園南地域自治協議会		(あやめ池小学校)	西部公民館		
	(準備会)	登美ヶ丘中学校	鶴舞小学校			
	平城西地域自治協議会		平城西小学校	登美ヶ丘南公民館		
	奈良帝塚山地域自治協議会	富雄第三中学校	富雄第三小学校			
	予定有	伏見中学校	伏見小学校	伏見公民館	あやめ池分館	伏見地域ふれあい会館
予定有	西大寺北小学校				西大寺北地域ふれあい会館	
	あやめ池小学校					
(準備会)	京西中学校	六条小学校	京西公民館			
		伏見南小学校		平松分館		
中部	(準備会)	都跡中学校	都跡小学校	都跡公民館	佐紀分館	都跡地域ふれあい会館
		平城中学校	平城小学校	平城公民館	歌姫分館	
南部		都南中学校	東市小学校			東市地域ふれあい会館
			辰市小学校		東九条分館	辰市地域ふれあい会館
	明治地区自治協議会		明治小学校			明治地域ふれあい会館
			帯解小学校	南部公民館	精華分館	帯解地域ふれあい会館
東部	(準備会)	田原中学校	田原小学校	田原公民館	横田分館 袖ノ川分館 水間分館	
		興東館柳生中学校	柳生小学校	柳生公民館	興ヶ原分館	柳生地域ふれあい会館
					邑地分館	
					北野山分館	
				丹生分館		
		興東小学校	興東公民館	大平尾分館		
				狭川分館	東里地域ふれあい会館	
月ヶ瀬		月ヶ瀬中学校	月ヶ瀬小学校	月ヶ瀬公民館		月ヶ瀬地域ふれあい会館
都祁		都祁中学校	都祁小学校	都祁公民館		
7	14	21	42	24	23	20

「今後の黒髪山キャンプフィールド及び 青少年野外活動センターの運営について」(案)

2つの公の施設(奈良市青少年野外活動センター及び奈良市黒髪山キャンプフィールド)について、令和5年度は指定管理の選定を実施する年度である。

これまでの運営の趣旨・目的に加えて、昨今のアウトドアブームや市民サービスの充実、本市の魅力の発信・向上をめざして、更なる運営等の充実を図ることとする。

今後の方向性

1. 施設の設置目的

自然環境の中での野外活動、レクリエーション等を通じた青少年の心身の健全育成に加えて、一般の方々の野外活動を通じた健康増進や交流の場の創出、本市の魅力を知っていただく。

2. 利用者

これまでのように、青少年とその関係者の利用の確保と一層の促進を図りつつ、一般の利用者や市外の利用者の受入れを図る。

3. 料金

社会情勢や近隣の類似施設に見合う利用者負担とし、黒髪山キャンプフィールドについても一定の利用者負担を徴収し、より良い施設運営の財源とする。

4. 指定管理料及び施設の運営経費

厳しい本市の財政状況や効率的で効果的な行政運営、市民サービスの向上の観点から、指定管理料の見直しを行う。また、指定管理者が独自のノウハウを活かして、利用者負担等を自らの運営財源として、指定管理者としての工夫を加えながら施設運営ができる体制とする。

5. 開所日

上記1、4等を踏まえ、利用者ニーズに沿いつつ、指定管理者の採算面も考慮し、現行の開所日に加えて、開所日数の拡充を行う。

(参考)施設の概要

○青少年野外活動センター

設備	個数	詳細
本館	1棟	宿泊室(定員8人)6室・(定員10人)4室 指導員室(定員6人)1室 補助員室(定員4人)1室 講座室(定員90人)3室(エアコン完備) 和室(21畳)・和室(6畳) 食堂(定員72人) 調理実習室 厨房 プレイルーム(エアコン完備) クラフト室(定員10人) 医務室 事務室 宿直室 機械室 倉庫 トイレ(1F・2F)・車いす用トイレ(1F)・厨房横トイレ
浴室	1棟	男・女
屋外便所	1棟	男・女
ロッジ棟	3棟	1棟定員6人
テントサイト	5張	
営火場	1ヶ所	
野外炊事場	1ヶ所	
駐車場	1ヶ所	50台

<令和4年度利用者数実績>

	宿泊 (宿泊室)	宿泊 (ロッジ)	宿泊 (キャンプサイト)	日帰り	合計
児童	1,312人	9人	58人	1,484人	2,863人
指導者	202人	6人	2人	339人	549人
指導者(青年)	9人	0人	0人	12人	21人
青年	146人	0人	25人	229人	400人
一般	104人	10人	49人	578人	741人
合計	1,773人	25人	134人	2,642人	4,574人

○黒髪山キャンプフィールド

設備	個数	詳細
キャンプサイト	4ヶ所	A(6～7張)・B(6～7張)・C(4張)・D(4張) ※1張は、5～6人用のドームテントを想定
デイキャンプサイト	1ヶ所	バーベキュー用テーブル(定員10名)6台 テーブル(定員10名)2台
キャンプファイヤー場	2ヶ所	第1(定員約100名)・第2(定員約50名)
シャワー棟	1棟	温水シャワー1ヶ所・冷水シャワー3カ所
トイレ棟	2棟	水洗完備
多目的研修棟	1棟	定員約50名・エアコン完備
野外集会場	1ヶ所	定員約100名
管理棟	1棟	
倉庫棟	1棟	
防災小屋	1棟	
アスレチック	4ヶ所	高床小屋(2ヶ所)、土管ピラミッド(1ヶ所)、丸太ステップ(1式)
駐車場	1ヶ所	32台

<令和4年度利用者数実績>

	宿泊	日帰り	合計
幼児	57人	271人	328人
小学生	199人	665人	864人
中学生	113人	761人	874人
高校生～25歳以下	47人	120人	167人
一般	277人	1,343人	1,620人
合計	693人	3,160人	3,853人

市町村名		奈良市			奈良県	笠置町	宇治市	東大阪市	寝屋川市									
施設名		黒髪山キャンプフィールド	青少年野外活動センター		奈良県立野外活動センター	笠置キャンプ場	宇治市総合野外活動センター 「アクトバル宇治」	東大阪市立野外活動センター 「自由の森なるかわ」	寝屋川市野外活動センター 「NOA(ノア)」									
運営体制(指定管理、委託等)		指定管理	指定管理		直営	委託	指定管理	指定管理	指定管理									
指定管理先		黒髪山キャンプフィールド協議会	特定非営利活動法人 奈良地域の学び推進機構		—	笠置町観光協会	公益財団法人 宇治市野外活動センター	株式会社 Recamp	特定非営利活動法人ナック									
年間利用者数	宿泊	693人(R4)	1,932人(R4)		656団体 述べ人数14,206人(R4)	88,000人(R3)	25,000人(R4)	約2,280人(R4.4~R4.9)	4,124人(R3)									
	日帰り	3,160人(R4)	2,642人(R4)				53,000人(R4)	約470人(R4.4~R4.9)	6,143人(R3)									
年間指定管理料		3,719,000円	24,444,445円		—	0円	113,600,000円	40,000,000円	18,441,511円									
年間利用料収入額		—	1,152,380円		—	非公表	24,317,420円	宿泊:約340,000円(R4.4~R4.9) 日帰り:約170,000円(R4.4~R4.9)	21,404,793円(R4.4~R5.1)									
料金の体系(利用料金、使用料金等)		—	使用料金		—	利用料金	利用料金	利用料金	利用料金									
料金	居住地区分				居住地区別なし		居住地区別なし		居住地区別なし		市民	市民以外						
	宿泊棟	児童等(3~18歳)	400	800	—	—	大人	3,120	—	—	—	—						
		指導者	400	800			高校生	1,560										
		指導者(青年)	500	1,000			小中学生	920										
		青年(19~25歳)	500	1,000			幼児(4歳以上)	740										
		一般	600	1,200			—	—										
	ロッジ	児童等(3~18歳)	350	700	平成23年度から無料 シーツレンタル料1人あたり300円	—	コテージ 4,800~22,000円 コテージの大きさ、利用日によって料金変動あり 別途シーツ代1人200円		900~9,600円 ロッジの大きさによって料金変動あり 別途シーツ代300円	—	—	—						
		指導者	350	700														
		指導者(青年)	400	800														
		青年(19~25歳)	400	800														
一般		500	1,000															
キャンプサイト	児童等(3~18歳)	100	200	無料	無料	大人(中学生以上)	1,000	大人	920	テント1張 3,200	70歳以上・3歳以下	無料	400					
	指導者	100	200			高校生	500	(健常者)	200		400							
	指導者(青年)	150	300			小中学生	600	小中学生	300		一般	(障がい者)	無料	400				
	青年(19~25歳)	150	300			幼児(4歳以上)	240	3歳以上(健常者)	100		200							
	一般	200	400			小学生(4歳以上)	200	小中学生	無料		200	一般	(障がい者)	無料	400			
	日帰り	児童等(3~18歳)	50			100	無料	無料	大人(中学生以上)		500	大人	240	野外炊事代 1人 100	70歳以上・3歳以下	無料	400	
		指導者	50			100			高校生		180	(健常者)	200		400			
		指導者(青年)	70			140			小中学生		300	小中学生	120		一般	(障がい者)	無料	400
		青年(19~25歳)	70			140			中高生(団体)		300	幼児(4歳以上)	60		3歳以上(健常者)	100	200	
		一般	100			200			小学生(団体)		200	小中学生	200		小中学生	(障がい者)	無料	200
施設面積		36,491㎡	126,077㎡		—	約30,000㎡	5629.32㎡	—	—									
休所日		4月~11月の平日(7/21~8/31は開所) 12月~3月	毎週月曜日 祝日 年末年始(12/26~1/5)		3・4・9~11月:月曜日・祝日 12~2月:月・火曜日・祝日 年末年始(12/26~1/4)	なし	毎週月曜日(夏休み期間・祝日を除く) 年末年始(12月28日~1月4日)	毎週火曜日休み(7月8日は開所) R4.10から半年間施設改修のため休止	第3火曜日(7・8月を除く) 年末年始(12/28~1/4)									
年間開所日数		約110日	294日		312日	365日	316日	322日	347日									
設備等	キャンプサイト	○	○		○	○	○	○	×									
	キャンプファイヤー場	○	○		○	×	○	○	○									
	シャワー設備	○	○		○	×	○	○	○									
	宿泊棟	×	○		○	×	○	○	○									
予約方法		電話で空き状況を確認 その後申請書を提出	電話で空き状況を確認 その後申請書を提出		団体:申請書(郵送・FAX・持参) 個人:電話	予約なし (当日現地受入)	電話で空き状況を確認 その後申請書を提出	予約サイト「なっぶ」	公共施設予約システム									
予約申請期間(当日予約の可否等)		3ヶ月前~14日前(当日予約不可)	3ヶ月前~7日前(当日予約不可)		原則団体優先(個人優先期間有) 団体:2週間前12時まで 個人:2週間前13時から2日前まで (当日予約不可)	なし (予約制ではないため、全員が当日受入)	5~8ヶ月前(区分有)~1週間前 (日帰り利用で、工作等、材料の確保を必要としない活動は当日受入可)	利用月の3ヶ月前の1日~ (空きがあれば当日受入可)	利用日を含む月の2ヶ月前の1日~14日前 (空きがあれば当日受入可)									
飲酒の可否		×	×		○	○	○(自動販売機設置)	○	○(ロッジ内は×)									
ゴミ処分の可否		×	原則持ち帰り 有料にて引き取り対応可		原則持ち帰り 指定のゴミ袋(45ℓ)を1枚350円で販売	○(無料)	○(無料)	原則持ち帰り 燃えるごみはゴミ袋を1枚300円で販売	原則持ち帰り 分別収集用のゴミ袋を1枚250円で販売									
担当部署		地域教育課	地域教育課		知事部局 青少年・社会活動推進課	商工観光課	教育委員会 生涯学習課	社会教育部 社会教育センター	社会教育部文化スポーツ室									

近隣の野外施設の情報について

市町村名		八尾市		枚方市		大阪市		京田辺市		京都市		城陽市		井手町(京都府)	
施設名		アクトランドYAO		枚方市野外活動センター		信太山青少年野外活動センター		竜王こども王国		花背山の家		青少年野外活動総合センター「友愛の丘」		大正池グリーンパーク	
運営体制(指定管理、委託等)		指定管理		直営		指定管理		直営		直営		個人経営		指定管理	
指定管理先		特定非営利活動法人ナック		—		大阪市青少年活動協会		—		—		公益財団法人青少年野外活動総合センター		公益財団法人青少年野外活動総合センター	
年間利用者数	宿泊	1,599人(R4)		2,046人(R3)		宿泊棟6,152人 キャンプ場1,542人(R3)		約2,000人(R4)		21,295人(R4)		約5,000人(R4)		約2,000人(R4)	
	日帰り	80,194人(R4)		6,079(R3)		宿泊棟523人 キャンプ場15,254人(R3)		—		3,892人(R4)		約13,000人(R4)		約3,500人(R4)	
年間指定管理料		14,630,000円		—		61,139,845円		—		—		—		0円	
年間利用料収入額		10,771,730円		2,013,950円		9,974,290円		約250,000円		907,369円		35,000,000円		約13,000,000円	
料金の体系(利用料金、使用料金等)		利用料金		使用料金		利用料金		使用料金		使用料金		—		利用料金	
料金	居住地区分	居住地区別なし		市民	市民以外	市内	市外	市内	市外	居住地区別なし		居住地区別なし		町民割あり(要事前申請)	
	宿泊棟	—		—	—	児童・生徒等(4歳以上) 400	520	450	700	小中学生 500(+200宿泊税)	3歳以上 2,300	大人 1,200	高校生 1650(+200)	中学・高校生 3,000	中学生 1,100
		—		—	—	その他の者 850	1,100	—	—	その他 3450(+200)	一般 3,950	3歳以上 1,000	—	—	—
	ロッジ	—		—	—	—	—	6,000	9,000	バンガロー	—	—	バンガロー	—	—
		—		—	—	—	—	—	—	小中学生 500(+200宿泊税)	—	—	8人用 15,000	—	—
		—		—	—	—	—	—	—	高校生 1650(+200)	—	—	6人用 13,000	—	—
		—		—	—	—	—	—	—	その他 3450(+200)	—	—	—	—	—
	キャンプサイト	平日	土日祝	大人(15歳以上、中学生を除く) 500	1,000	児童・生徒等(4歳以上) 350	450	200	400	小中学生 300	3歳以上 1,100	大人 600	高校生 820	中学・高校生 1,300	中学生 550
		7歳以上16歳未満 380	460	子ども等(小中学生、60歳以上、障がい者) 250	500	その他の者 750	970	※市内は市内に在住、通勤、通学するもの		その他 1,720	一般 1,500	3歳以上 500	—	—	—
		16歳以上 770	920	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日帰り	平日	土日祝	大人(15歳以上、中学生を除く) 200	400	児童・生徒等(4歳以上) 200	260	100	200	小中学生 150	幼児・小学生 600	大人 600	高校生 370	中学・高校生 700	中学生 550	
	7歳以上16歳未満 180	220	子ども等(小中学生、60歳以上、障がい者) 100	200	その他の者 400	520	※市内は市内に在住、通勤、通学するもの		その他 700	一般 800	3歳以上 500	—	—	—	
	16歳以上 380	460	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
施設面積	—		183,400㎡		170,000㎡		13,000㎡		151,000㎡		6,083㎡		172,000㎡		
休所日	年末年始(12/29～1/3)		毎週火曜日(GW・夏休み期間は開所) 6月の第一水曜日 12月～2月の平日 年末年始(12/29～1/3)		毎週月曜日(春・夏休み期間は開所) 年末年始(12/27～1/4)		毎週水曜日(7、8月は除く) 年末年始(12/28～1/3)		年末年始(12/28～1/4) メンテナンス日4日間		毎週水曜日(夏休み等は開所) 年末年始		毎週水曜日 12月～2月の火曜日 年末年始(12/28～1/4)		
年間開所日数	359日		267日		308日		306日		353日		約350日		約300日		
設備等	キャンプサイト	○		○		○		○		○		○		○	
	キャンプファイヤー場	○		○		○		○		○		○		○	
	シャワー設備	×		○		○		○		○		○		○	
	宿泊棟	×		○		○		○		○		○		○	
予約方法	インターネット・電話		Web予約		ネットで空き状況を確認 その後電話で予約して申請書を提出		電話で空き状況を確認 その後メール・FAX・郵送で申込書を提出		電話で申請 その後申請書を記入		日帰り・宿泊棟:電話で申請 その後HP申込フォームを記入 テント宿泊:予約サイト「なっぶ」		予約システム「リザエン」 オートサイトの「なっぶ」		
予約申請期間(当日予約の可否等)	八尾市・大阪市在住者:3ヶ月前の1日～ 他市:2ヶ月前の1日～ (空きがあれば当日受入可)		4ヶ月前の10日～10日前 (日帰りのみ当日電話予約可)		市内:前年9月～1ヶ月前 市外:前年10月～1ヶ月前		市内:3ヶ月前～7日前 市外:1ヶ月前～7日前 (団体の人数によって変更あり)		市民:半年前～1週間前 (30名以上:7ヶ月前～1週間前) 市外:4ヶ月前～1週間前		1年前～ (夏休み期間のみ前年の11月1日～)		1年前～		
飲酒の可否	×		○		○		○		○(夕食のみ)		○		○		
ゴミ処分の可否	ゴミ袋を1袋300円で販売		○(無料)		原則持ち帰り ゴミ袋45L 110円で販売		○(無料)		原則持ち帰り ゴミ袋を45L 840円、30L 580円、15L 300 円で販売		原則持ち帰り 空き缶・焼き網などの金属類、段ボール、 割り箸のみ○		×		
担当部署	教育委員会事務局 生涯学習課		スポーツ振興課		子ども青少年課		スポーツ振興課		京都市教育委員会		なし 城陽市との関わりなし		井手町役場 地域創生推進室		

令和5年度 第1回奈良市社会教育委員会会議 会議録			
開催日時	令和5年 6月28日(水) 午前10時から12時まで		
開催場所	奈良市役所 中央棟 B1 会議室		
出席者	委員	岡田 ^和 委員、岡田 ^龍 委員、奥田委員、加藤委員、川野委員、北出委員、武村委員、中村委員【計8人出席】	
	事務局	教育長、教育部長、教育部次長、地域教育課長、地域教育課課長補佐、地域教育課主査、生涯学習財団事務局長	
開催形態	公開(傍聴人4人)	担当課	教育部 地域教育課
議題又は案件	(1) 令和5年度社会教育関係事業について <ul style="list-style-type: none"> ① 「令和5年度補助金交付社会教育団体」について ② 「令和4年度社会教育委員事業実績」について ③ 「令和5年度社会教育委員事業計画」について (2) 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について (3) 今後の公民館運営について (4) 今後の黒髪山キャンプフィールド及び青少年野外活動センターの運営について (5) その他		
決定又は取り纏め事項	(1) ① 令和5年度補助金交付社会教育団体の承認		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
(1) 令和5年度社会教育関係事業について <ul style="list-style-type: none"> ① 「令和5年度補助金交付社会教育団体」について【資料1】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金交付の承認にあたり、関連団体に所属する委員については一時退席の対応をした上、各団体及び事業概要の説明を行った。 ・ 社会教育に関する事業を主たる目的とする社会教育団体「奈良市PTA 連合会」「奈良市子ども会育成連絡協議会」「一般社団法人ガールスカウト奈良県連盟奈良市協議会」「ボーイスカウトわかくさ地区協議会」及び「奈良ユネスコ協会」の5団体に対する運営補助の補助金交付を予定している。 <ul style="list-style-type: none"> < 補助金交付について承認された > ② 「令和4年度社会教育委員事業実績」について【資料2】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料のとおりであることを説明した。 			

<特に意見なし>

③令和5年度社会教育委員事業計画について【資料3】

- ・資料のとおりであることを説明した。
- ・各種大会の詳細な通知が届き次第、委員の方々に案内することを説明した。

<特に意見なし>

(2) 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について【資料4】

【委員からの意見・質問等】

- ・社会教育委員の意見に対して各課から回答はあるが、その後各課の事業にどう活かされたのかが分かるようなフィードバックが頂きたい。
- 事業評価シートの在り方もしくは同じ事業評価シートであっても、委員の意見をどう事業に活かしていくのかという視点を関係各課へ周知してPDCAの流れを作るようにしたい。

(3) 今後の公民館運営について【資料5】

- ・資料のとおりであることを説明した。

【委員からの意見・質問等】

- ・公民館の位置づけを変えて、財団の役割を変えてということになると最終的には条例改正が必要であろう。時間的見通しと我々社会教育委員に期待されていることや役割についてお聞きしたい。
- 公共施設は条例に規定されているため、移行にあたり条例改正は必要である。担い手が見込める施設から順次条例改正をして移行していきたいと思う。様々な立場で社会教育に携わっておられる社会教育委員の皆様には、行政が見えていない範囲や配慮がいくところについてご指摘やご助言を頂きたい。- ・公民館に関する課題や地域の課題については最もだと思うが、新しい融合施設にすることでどう解決されるのか。地域の方が担うことで身近になるというメリットはあるが、その地域の方のバイアス的なものや考え方が固定化されていくので、多様性というところで心配される。

→公民館機能を備えたふれあい会館にすることで全ての課題が解決されるわけではないが、移行することで出てくるメリットが多くある。例えば、より地域に身近な方がいらっしゃる施設で、生涯学習や社会教育をやっていくことで学んだことを地域や社会で生かす気運の醸成等に結びつきやすいのではないかと考える。公民館とふれあい会館両方の良い所を融合させることで、より良い地域拠点を作れると考える。無論市の厳しい財政面から見ても両方の施設を全ての地域に整備することは難しい面もある。先を見据えて、市教育委員会の職員ないしは財団の職員が社会情勢や市民のニーズを見ながら社会教育の内容やサービスを提供していくことが必要だ。- ・公民館とふれあい会館を融合し、ふれあい会館に公民館機能をつけることは聞いたが、逆に公民館を維持して公民館にふれあい会館機能を持たせないのか。
- ・奈良市では公民館の運営を財団に委託し活性化に努めてきたが、財団をもってしても利用者の固定化、偏りの流れを変えていくことは難しい事実がある。ここで新規

軸を出す必要があることはわかる。地域自治協議会が受け皿であることが前提であろうが、一つの団体に集中投下していくという大きな行政の流れだと理解している。いずれにしろ、地域に運営できる人材がいるのかが問題だ。財団の有能な人材が施設運営のために張り付いているのではなく、地域人材の育成面で活躍していただく等プロ集団として機能するのであれば良いのではないか。ただ公民館を無くす事ありきではなく、財団がこれから奈良市で自分たちの力をどうやって発揮していくか財団の中での議論が必要であろう。

→様々な行政サービスを可能なやり方で継続発展させていく必要がある中で、継続性を見込みつつ、どうしていくべきかを考えて今回ご提案した方向性になった。

- ・財政が下がっている中でどうやって社会教育を維持存続させていくのか、何を残して何をスリム化していくのか。公助ができなくなっている中で、いかに自助と共助を生み出せるのか。自治をどのように生み出すのかはまさに社会教育の範疇である。現在、『Local Coop 月ヶ瀬』にて、行政を使わない住民自治の在り方が先行して進みつつあるので、プロジェクトの成果を見て、奈良らしいやり方を見てからでもよいのではないか。先行事例を検証し、議論を重ねて進めていってほしい。
- ・公民館は防災拠点である。そのためには、どんな市民サービスができるのか、常日頃からどうやったら人が来やすいのか、建物を知っていただく面でも、多くの人に来てもらう方法はないのか併せ持って考えて頂きたい。

(4) 今後の黒髪山キャンプフィールド及び青少年野外活動センターの運営について【資料6】

【委員からの意見・質問等】

- ・料金が有料になるということと施設開所日を広げるということだと思うが、青少年や関係者の利用を優先するとか、無料にする等は考えていただけないか。

→両施設とも施設の名称に青少年が入っており、現状利用者も青少年に限っている。青少年及び関係者の利用を大切にしつつ、今後一般の方にも利用していただけるように考えているが、青少年及び関係者の利用を優先できるよう仕組みを作っていけたらと思う。

(5) その他

資 料	<p>令和5年度 第1回奈良市社会教育委員会議次第 令和5年度 奈良市社会教育委員名簿 (資料1)「令和5年度 補助金交付社会教育関係団体一覧」 (資料2)「令和4年度 社会教育委員事業実績」 (資料3)「令和5年度 社会教育委員事業計画」 (資料4)「奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告」 (資料5)「今後の公民館運営について」 (資料6)「今後の黒髪山キャンプフィールド及び青少年野外活動センターの運営について」</p>
-----	---